

定年後の嘱託 待遇改善

西部ガス

西部ガスは定年後に再雇用する嘱託社員の待遇を改善する。30年ほど前の大量採用時代の社員が定年を迎え、社員が不足気味になることに対応する。給与面や労働環境を改善した新制度を2018年度から導入する。今後定年を迎える50歳代のミドル層のやる気を引き出す。

嘱託社員として再雇用する際の雇用条件のうち、一律だった給与体系を評価に応じた3段階に

給与、評価別3段階に



管理職に対しても研修を行い、ミドル層のやる気を引き出す

やる気を鼓舞 再雇用率上げ

変える。また、業績に応じて賞与としての意味合いのある賃金体系も導入する。現在は一般社員が嘱託社員になると給与は4〜6割ダウンする。どの程度引き上げるかは現在の程度に合わせたものに、50代になった際に、上司と面談を重ね労働環境について調整する。具体的には自分の専門性が生かせる

在、労働組合と調整中で年度内にまとめる。給与面のほかに、50代になった際に、上司と面談を重ね労働環境について調整する。具体的には自分の専門性が生かせる

の専門部署を設けている。30年ほど前は高卒と中途採用を増やしピーク時に100人程度採用していた。現在は大半と高卒を中心に40人程度。今年3月末で約1600人の社員数は10年後に60歳以下で1360人程度に減る見込み。1400人規模の社員数は必要なため、嘱託社員を増やす必要がある。

ンケート調査では50歳代に入ると、待遇面や健康面からやる気が減退する社員が多いという。人事労政部長の高山健司執行役員は「給与や労働環境を改善することで、会社で培った知見を生かして

もらう」と語る。待遇改善でまずは嘱託社員になる比率を8割程度までの引き上げを目指す。65歳まで働く意欲を高めた後に、定年延長など新たな制度の導入の検討を進める考え。

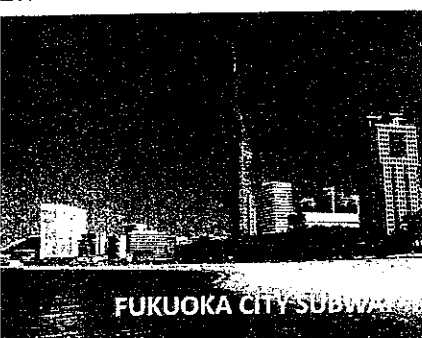
各社、人材確保に腐心 定年延長も

2013年から厚生年金の支給開始年齢が段階的に65歳まであがるのに伴い、同年に改正高年齢者雇用安定法が施行され、希望者全員の65歳までの雇用確保が企業に義務付けられた。ただ再雇用する場合、給与や休日などの条件は定年前と変わる企業が多い。業務内容が大きく変わらざるに給与が大幅に下がるケースもある。これに対して西部ガスは給与や休日などの待遇を改善しながら再雇用者を増やす。社員のやる気を引き上げる取り組み

九電、財務改善進む

今期純利益500億円 玄海再稼働めど

九州電力は12日、2018年3月の純利益が前期比37%減の500億円になるとの業績予想を発表した。玄海原発3、4号機の再稼働効果はあるが電力システム改革向けシステム投資などが響き、150億円とした。今後、玄海原発の2基



福岡市は12日、外国人旅行者専用の地下鉄2日乗車券Ⅱ写真は同市提供を25日から発売すると発表した。2日乗車券は全国の地下鉄では初めて。価格は720円で、現在は全ての利用客向けに1日乗車券を620円で発売している。昨年、福岡空港と博多港から入

2日乗車券 25日から

福岡市営地下鉄、25日から福岡空港と博多港など、みを利用する客も増えて

「くまモン」展、全国で

熊本県は、PRキャラクタ「くまモン」の関連グッズや商品を集めた「くまモン」展を全国の百貨店で開く。2019年までに大

熊本県、被災者支援に力

初の展覧会「大くまモン展」を全国の百貨店で開く。2019年までに大